

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成24年度 第17回
開催日時	平成24年7月25日（水曜日） 午後6時30分から8時20分まで
開催場所	田無庁舎3階 庁議室
出席者	出席：名古屋委員、藤原委員、渡辺委員、大野委員、高橋委員、小野委員、石田委員、今井委員 欠席：白松委員、富永委員、蓮見委員 事務局：浜名課長、小室係長、貫井主任
議題	(1) 第16回 男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について (2) 男女平等推進センター パリテの事業報告 (3) 次期委員会への申し送り事項の承認について (4) 市民意識調査の項目（申し送り）の検討・承認について (5) その他
会議資料の名称	(1) 第16回 男女平等参画推進委員会会議録（案） (2) 西東京市第3次男女平等参画推進計画に関する申し送り事項（案） (3) 各委員からの市民意識調査の調査項目（修正・新規・削除）検討票 (4) 西東京市第3次男女平等参画推進計画に関する調査計画 (5) 西東京市男女平等参画推進計画に関する市民意識・実態調査（案） (6) 男女平等推進センター パリテ事業報告
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会 委員長： 定刻になったので、第17回男女平等参画推進委員会を開催する。</p> <p>1 第16回 男女平等推進委員会会議録（案）の承認について 委員長： 第16回会議録の承認について、訂正等何かあるか。</p> <p>○委員： 3ページの「意義なし」の「意義」は「異議」の誤りで、修正願う。</p> <p>委員長： 他になければ、会議録を承認することとする。</p> <p>2 男女平等推進センター パリテ事業報告 事務局の説明</p>	

○委員長：

私も参加した講座では男性10名、女性18名の参加があり、男性、特に30代の方が多かった。男性は瀬地山先生のことを知っていて、ベースがあるうえで質問等をされていたことが、先生が「西東京市の市民のレベルが高い」という感想を持たれた原因だと思う。ぜひまたこのような講師の方をお願いしたい。パパクラブなどといい関係ができつつあることも、講座がうまくいった要因だと思う。

3. 次期委員会への申し送り事項の承認について

○委員長：

委員から、リード文への修正案が出されたが、その他の委員からは、これでよいという回答だった。

委員長：

異議なしという意見が多いということで、最終案文のままで決定とする。

各委員：

異議なし。

4. 市民意識調査の項目（申し送り）の検討・承認について

事務局：

（調査票についての説明）

副委員長：

表紙の裏のイメージ（例）は面白くていいと思ったが、このなかの文言で修正してもらいたいところがある。「男の子・女の子」は「女の子・男の子」、「家事参加」は「家事分担」、プロジェクトに「参加」ではなく「参画」と直してほしい。

委員：

表紙の裏のイメージ（例）の文言は、高齢者にも調査票を送るのだから、これでは字が小さい。

委員：

問12で、「(5) 子どもの世話やしつけ」などで該当しない場合は、「その他に○」という説明を加えたほうがいい。

副委員長：

問12は、答えるのが大変で、計画への反映にあまり使えない。問の数を全体に減らそうということだったので、この問はいらない。問10も答えるのが大変であり活用できないので、いらない。

委員長：

表紙の裏のイメージ（例）は、イメージと言ってしまってもいいのかということと、イメージにしてはおおざっぱで荒っぽく、市民に誤解されて伝わってしまうなど怖い。例

えば、「生活者の立場からまちづくりをすすめよう」とあるが、生活者の立場から、と
言い切らないほうがよい。

また、「男女ともに行動し、ともにきめることができる社会」とあるが、何を定める
のかわからない。あと、学校で、地域で、職場で、まちづくりで、とあるが、市民に偏
っていて、行政という言葉が抜けている。言葉1つ1つを吟味しないとイケない。

あと、表紙の鏡文はへりくだった挨拶ということで、明朝体にする。市長の名前の文
字が大きすぎる。「くじ引き」で選ばれた、という文言に違和感がある。「無作為抽出
で」と記載する。「ポストに投函する」というのは、言葉がかぶっているので、「投函
する」でよい。

「あなたの声を西東京の」は「市」を入れ、「西東京市」とする。鏡文の最初の2行
(合併後10年が経過し、～)は、確かにそうかもしれないが、これで「だからアンケー
トに答える必要があるのか」というふうに理解できない。

また、表紙の裏のスケジュール掲載は非常にいいことだと思うが、「市民アンケー
ト」だけだと何をするのか分からない。「市民アンケート調査を実施します」と書く必
要がある。「パリテまつりにて、アンケート結果発表」は「パリテまつり会場にて、ア
ンケート結果を発表します」「パブリックコメントの意見によって再調整し、計画を策
定します」など、語尾に何をするのかはっきり丁寧に書く。また、「パブリックコメン
トにご参加ください」を入れ込むとよい。あと、平成25年2月の「意見募集」とは何を
指すのか。

支援業者：

パリテまつりで、市民の方にも調査結果を見て意見を集める機会を作れば、と考
えている。

委員長：

説明を聞いてわかったが、今現在の活字の表現ではわからないので、丁寧な説明を加
えてほしい。

事務局：

スケジュールは「(予定)」を入れてほしい。

委員：

「アンケート」など、カタカナ語は使わないほうがいい。「調査」と「アンケート」
の使い分けが判別しにくい。

委員：

表紙裏のイメージ(例)は、他の調査でも掲載したことはあるのか。

支援業者：

今回が初めてである。近年、回収率が低下する傾向にあるので、事務局側の考え、思
いを市民の方に理解してもらうことによって、回答率も上がるのではないかと思い、提
案をした。

委員：

それはいいことだが、イラストと言葉がマッチしていない。プールでの絵など何を表しているのかわからないし、掲載する理由が明確でないなら、大きな絵を1つ掲載すればよい。

また、回答してもらいやすいようにという意図があるなら、調査項目が多い。他の課で調査するものは入れずに、男女平等参画に関わることだけにしようというのが、前回委員会で確認した。問4と問5はいらぬ。

または2つの問を一緒にして、家族構成だけを聞けばいいのではないか。例えば、問4の選択肢で三世帯世帯が3つあるが、考察が大変であるし、計画にどのように反映できるのか分からない。また、こういう煩雑な選択肢があると、市民は面倒になり、後半の回答が適当になってしまうことがある。

委員：

問6の住所の選択肢は細かすぎるのではないか。どこに住んでいるのかは関係がないと思うので、問6はなくてもよい。

副委員長：

問3の居住年数もいらぬのではないかと思う。問4と問5については前回の調査票と同じである。

委員：

選択肢が多いところは減らしてほしい。問12はどのように計画に反映させるのか、わからない。問16も同様である。もっと回収率が上がるように工夫されてはどうか。

副委員長：

問16はなくてもいい。問19もいらぬ。

委員長：

2頁の一番上で、「日ごろからの意識～」と書かれているが、何の意識なのか。「男女平等参画の意識」としたほうがいい。問14は入れるべきだと思うが、選択肢が多い。

問15で、起業とNPOの活動が同列の問となっているところに違和感がある。「収入を得るとともに」という表現が、起業、NPOか何のことを言っているのかわからない文章となっている。問15-1の選択肢1の「普通の仕事」とは何なのかわからない。

支援業者：

この問の趣旨は、西東京市の労働力率の変化を見たところ、50歳代以上の労働力率が高くなっていて、そのことは、地域におけるコミュニティビジネスのようなものが求められているのではないかと考えた。今回、仕事に関する質問は減らした半面、新しい仕事、コミュニティビジネスに関する質問を入れようということが趣旨である。

委員長：

ここで説明を聞かないとわからない質問文ではまずい。誰が見てもすぐわかる明確な質問文にしてほしい。

委員：

問20についてだが、西東京市は東日本大震災で被害を受けていない。それで、この選択肢を見ると、西東京市は危機管理室に女性に対しての視点がないと言っているように取れる。

委員長：

この質問はよいと思う。今の施策がどうであるか、ではなく、市民に何が重要か、ということを知っているわけである。大変興味深い問であると思う。

事務局：

やはり、震災後、西東京市の防災会議などにおいて女性の視点をもっと入れなくてはいけないということは話し合われている。

委員：

そのようなことを知らない市民に対して、答えさせようとしている問である。

委員長：

こういう問を読むことによって、こういうことが重要なのか、というように考えてもらえる、啓発的な意味合いもある。

事務局：

委員の言うように、誘導にも取れるし、委員長の言うように、「ああ、なるほど」という啓発的な意味もあるだろう。

委員長：

実際に、東日本大震災、阪神・淡路大震災の際にも、女性の視点を持つことによって被災者支援がより豊かになったという、いろいろな現状がある。

委員：

実際の震災の経験者に尋ねるのはわかるが、被害のなかった西東京市民に聞いても意味がない。

委員：

問20は、西東京市が実際に対策をしても、してなくても、これらの選択肢の内容は計画にかなり反映できるものだと思う。危機管理室でも話し合っている内容ということなので、誘導はしているが、必要な問ということではないか。

委員長：

選択肢はどれも重要だと思うが、問の聞き方を少し変えるといい。

委員：

問23の順番がおかしい。西東京市関係のものを上に持っていくべきである。

副委員長：

問21、22からの流れで、配偶者暴力防止法を最初に持ってきているのだろう、と推測していた。ただ、配偶者暴力防止法が入っているのであれば、男女共同参画社会基本法も入れてほしい。

委員：

最後のところに、自由回答欄が2つあるので、1つでいいと思う。ここまで答えて、疲れてしまうだろう。

委員：

問14の選択肢5に、キャリアカウンセリングとあるが、専門用語なので、できるだけ平易な言葉のほうがいいのではないか。

委員：

問16で、記入例に2つ〇が付いているのは間違いか、2つ付けてもいいのか。

支援業者：

縦でみて、それぞれ1つに〇をつけていただく、という意図である。設問文を今後修正する。

委員長：

問21の設問文で、「配偶者・パートナー、恋人などからの暴力」とあるが、「配偶者・パートナー、恋人など親しい人からの暴力」と変える。問21-1の選択肢で出てきた相談機関等が、問22-1にも出てくる。書く立場からするとダブリの質問に思えるかもしれない。問24は非常にいい質問であると思う。選択肢3は「男性の割合はもっと増やす必要がある」としたほうが、バランスがいい。

委員長：

問26は、皆さんどう思うか。

副委員長：

もう少し、教育的、啓発的な内容でもいい。

副委員長：

問13の設問文は、「出産や育児・介護のために休んでいる」という文章は広く取られることがあるので「出産や育児・介護のために休んでいる（育児休暇、介護休暇中）」などとするとよい。あと、問8の(5)は、よく使われる問ではあるが、分析、考察に使えない。

委員：

他にも考察、分析が難しい問が多い。例えば、問13と問13-1から、何を考察するのか。

支援業者：

問13も問8も、前回の調査で聞いている問であり、経年変化を見る、この5年間でどのように変わったかを見るのがねらいである。

委員長：

問17で「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉を見聞きしたことが「2 ない」と答えた方でも、問18でワークライフバランスのために必要なものを答えないといけない。「1 ある」と答えた方にとっても選択肢は多いと思うので、「2 ない」と答えた方にとっては答えづらいと思う。東京都でも聞いている問なので、その問を参考にしながら修正をお願いしたい。

○事務局：

では、委員の意見を出来る範囲で反映して、調査票を作成していきたいと思う。

5. その他

委員長：

最後に、委員の皆様からあいさつをお願いしたい。

委員：

問26の条例についての問だが、条例制定に向けて意識を高められるような問にしていただきたい。この調査が、うまく第3次計画に使われることを祈っている。

副委員長：

非常にいい機会をいただいたと、思っている。

副委員長：

委員のメンバーで、男性が多く、かつ公募が多かったことは非常に頼もしく、西東京市は非常に進んでいるのではないか、と思った。いろいろな意見を出してもらって、非常に勉強になった。

委員：

一般の市民にとっては、男女平等参画の意識の高いこの委員会において聞いてどうするのかと思う問でも、尋ねることで市民の男女平等参画の機運が上がってくるということもあると思う。

委員：

委員会で専門の方々の話をいろいろ聞かせていただき、他の方に説明できるようになったことは、非常によかった。有意義な時間を過ごさせていただいた。

委員：

日本では、上から、官が何か決めないと動かない部分があるようである。しかし、女性が参加されることで、そういう部分も変わってくるのかもしれない。これから変わっ

ていく様子が見られるのを楽しみにしている。

委員：

やはり、ジェンダーというのは難しいと実感した。年代、価値観によっても違ってくる。アンケート調査を第三次男女平等参画推進計画、条例制定に活かしていただきたい。

委員長：

2年間お世話になった。条例については、委員と同じように制定に向けて意識を高めるような問を入れるとよい。あつたほうがよいと思いますか、という意向だけでも聞けるとよいと思う。庁内の推進体制の充実がもう少しほしかった。

事務局：

(貫井主任、小室係長、浜名課長からそれぞれ挨拶)

委員長：

以上、閉会とする。